

**事業所名** グループホーム シバ・ピアーズ 愛

日付 平成 21 年 8 月 14 日

**評価機関名** 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 医療機関経営者  
実務経験10年以上

高齢者福祉・医療における  
実務経験3年以上

**自主評価結果を見る** (評価内容と一緒に添付しています。)

**評価項目の内容を見る**

**事業者のコメントを見る**(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)  
(記述式)

2階玄関を入ると、入居者の2009年の抱負『2009年は思い出の多い年にしていきたい』が掲げられ、それに向けて、多くの思い出作りを職員は手助けしている。毎月の行事(誕生日会等)や、季節に合わせた外出(春にはいちご狩り、秋には後楽園鑑賞)は入居者の意見を汲み取りながら、入居者との信頼を深めつつ、それが入居者から家族へと伝わり、家族と一緒に共同しながら行っている。また、職員のチームワークも良く、皆、誇りと親しみを持って入居者に接している。新しい入居者が入っても、他の入居者と同様に対処し、出来るだけ平等なケアを心掛け、食事のメニューの唱和や「いただきます」の号令を入居者をお願いして、出来るだけ自分で出来る事は自分で、やりたいことはやらせてもらえるように見守りに徹している。

良質な介護をするには良いスタッフがいる。良いスタッフを育てるには良い環境が必要、良い環境とは笑顔があり、お互いに気付いた事に対して、話し、相談しあえる関係を築くことが肝心であるということ、この施設を調査させてもらっている時間で、基本的なことの積み重ねの重要性をしみじみと感じることができた。台所やフロアー、部屋の配置等、利便性や見守りには少々大変な点もあるが、スタッフの明るさはもちろん入居者の笑顔を見てみると、そんな点も逆に、入居者の生活感あふれる空間を作っているように感じられた。

第三者評価に前向きに取り組んでおり、いろいろな話を聞いている中で、自分達ができる最高の介護をしているという自信にあふれ、「どうぞ見て下さい」という思いを感じ、また、同グループで別の場所に施設があることでそれぞれの施設が競い合い、自分達の介護を客観的に評価し、よりよい介護を行えるよう研鑽している姿もみられた。

グループホームの理念である「笑顔とチームワーク」「限りなきプラス思考」「あきらめから希望へ」を、入居者に対して、自分の親だと思ひ介護をさせてもらっているという介護の基本に基づき、スタッフ全員が忠実に実践している。また、そのことを負担に思うことなく、楽しみながら実践している施設である。

**特に改善の余地があると思われる点(記述式)**

現在「便り」を作成中であるが、入居者が施設で楽しく日常生活を送っていることが分かりやすく、伝えられるような物にしてほしい。出来れば、地域でも見ることでできる場を作り、施設の成り立ちや役割、現状報告などを定期的に発信する場になってもらいたい。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>スタッフ一人ひとりがとても明るく、仕事に対しても楽しくしていこうという気持ちを持って介護に取り組んでいる。施設の方針を中心に入居者の方々に満足してもらえるように、スタッフが丸となって、より上の介護を目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>入居者が好きなところで過ごせるよう、色々な場所に椅子を配置している。また、エレベーターを利用して入居者の行きたい所へ行ってもらったり、北から南へ自由に入出入り出来るような環境作りに取り組んでいる。入居者それぞれが落ち着いて自分らしい生活をしており、ゆったりとした雰囲気を感じられる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>入居者(自身)が中心となり、食前口腔体操を大きな声で執り行なっている。スタッフが入居者の歩んできた生活、仕事、故郷など人生を知ることにより、入居者一人ひとりを尊重し、支援を行っている。決して押し付けがましい援助をすることなく、本人が答えてくれる言葉、行動、笑顔に対して感謝の気持ちを忘れずに対応をしている。また、9人それぞれの入居者に対して平等にケアが行き渡るよう心がけている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>現状のサービスをケアプランやモニタリングなど目に見える形で記入、チェックし、入居者一人ひとりに対して、スタッフの誰もが同じ介護ができるように注意している。また、外部からの情報収集や研修等積極的に参加し、サービスを向上できるよう努力している。</p> <p>問題があった時はスタッフが一人で抱え込むことがないように、普段から何でも相談しあえる人間関係作りを励んでいる。そして、いい人間関係作りがチームワークを強固にして、より質の高い介護を提供することに繋がっている。</p>		